

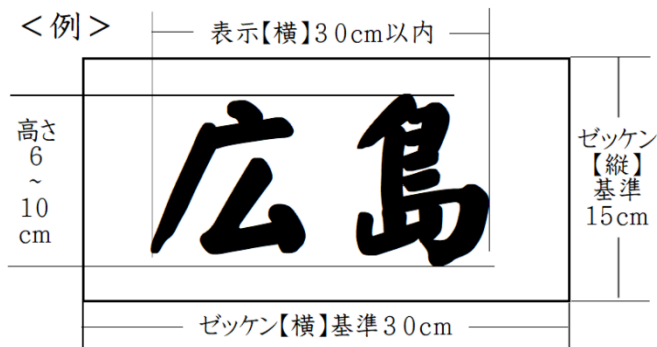
競技・審判上の注意

この大会は、令和6年度（公財）日本バドミントン協会競技規則および大会運営規程ならびに公認審判員規程、令和6年度第25回全日本中学生バドミントン選手権大会大会開催要項および注意連絡事項により行います。その他は、ブロック代表者会議の決定事項・監督会議での確認事項に準拠し運営します。

【使用用器具等】

- 1 使用用器具は、（公財）日本バドミントン協会検定・審査合格用器具とします。ただし、使用シャトルは、（公財）日本バドミントン協会第1種検定合格球とし、環境に合致したスピードのシャトルを使用します。
- 2 シャトルは試打してありますので、選択は認めません。また、シャトルの交換については主審が決定しますので、指示に従ってください。
- 3 プレーヤーは、マッチ中、ステンシルマーク入りのラケットの使用はできません。
- 4 審判は、すべて大会本部にて行います。主審1名、線審2名で行います。ただし、準決勝以降は4名線審、サービスジャッジを配置します。
- 5 サービスジャッジ（サービス高測定器を使用）は、決勝トーナメント戦準決勝より配置します。その他の試合においては、原則として配置しません。
- 6 競技中の服装については、（公財）日本バドミントン協会審査合格品とします。試合前に主審がチェックします。
- 7 上衣の背面中央に必ず都道府県名を1行で表示してください。文字列は明瞭な文字を使用し、文字の色は単一色ですべて同色、上衣背面の文字列表示部分の色と明確に区別できる色とします。（視認性高い文字、大きさ、色にて作成し、観客席から見た場合でも選手情報が明瞭に視認できるように表示してください。）ゼッケンを使用する場合、白の布地で縦15cm、横30cmの大きさを基準とします。（ゼッケンの場合の文字の色は、黒色または濃紺色とします。）
*日本中学校体育連盟バドミントン競技部ホームページに掲載されている、『全日本中学生バドミントン選手権大会【着衣表示申し合わせ事項】〈着衣表示〉について』をご確認ください。

①ウェア(上衣)の背面



②ウェア(上衣)の前面



- 8 防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めますが、体裁良く結んでください。インナーについては、露出する場合は、審査合格品とします。儀礼（開会式、試合入退場・あいさつ・表彰時）の際は、上衣の裾は下衣の中に入れてください。
- 9 会場内では、監督・コーチ・選手は大会実行委員会から発行されたIDカードを必ず携帯してください。出場登録選手もIDカードの携帯を基本としますが、上衣にプリントされた都道府県名の背面表示、あるいはゼッケンをIDカードの代替とすることを認めます。
- 10 ベンチまたはコーチ席に入る時の服装（監督、コーチ、登録選手）は、公認審判員規程第5条第12項（8）に従い、マッチにふさわしい服装で臨んでください。チームユニフォーム、シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチサンダル、バミューダ、ショーツ（ショートパンツ、七分丈パンツ）、スリッパ、サンダルは禁止とします。なお、疑問のある着装については、その適否判断をレフェリー（またはデピュティレフェリー）に委ねるものとします。また、コーチ席に座る者全てにこの規定は適用されます。

【競技場への入場可能者】

- 11 競技場への入場可能者について
(1) 団体戦でベンチ入りができる者は、登録した監督1名・コーチ1名・男子選手3～5名・女子選手3～5名とします。

- (2) 団体戦の監督・コーチ・選手の変更については、疾病や傷害などの特殊な場合のみとし、3月21日(金)15:30監督会議開始までに書面(所定用紙)によって大会事務局に申し出てください。なお、選手の追加は認めません。
- 1.2 コーチ席に着席できるのは、登録してある監督・コーチ・選手とします。コーチ席は、2席とします。IDカードを必ず身につけてください。

【競技方法・順位決定方法】

- 1.3 予選リーグはブロック戦とし、各ブロック1位のチームが決勝トーナメント戦に進出します。予選リーグにおける順位の確定は以下の方法で行います。
- (1) 勝敗による
(2) マッチ率による
(3) 上記(1)(2)が同率の場合、得ゲーム率
(4) 上記(1)~(3)が同率の場合、得ポイント率
(5) 上記(1)~(4)が同率の場合、直接対決の勝利チーム
- ※棄権の場合、記録は残しますが、上記(2)~(4)の計算においてはすべて2対0の2対0で敗戦したものとして扱います。
- 1.4 予選リーグの対戦は勝敗に関わらず、すべてのマッチを行います。原則2面並行で行いますが、進行が遅れた場合は3面または4面に開く場合があります。
- なお、1対戦のマッチ順序は、男子単→女子単→男子複→女子複→混合複としますが、混合複に重複する選手がいる場合、順序を入れ替える場合があります。コート挨拶時に両監督に主審よりマッチ順の説明をします。
- ※具体例 Aチーム：同一選手が混合複に出場し、男子複に出場する
Bチーム：同一選手が混合複に出場し、女子単に出場する 場合
< ①女子単→②男子複→③男子単→④女子複→⑤混合複 >
- 1.5 決勝トーナメントは3マッチ先取とし、1対戦のマッチ順序は、以下の通りとしますが、予選リーグ同様、混合複に重複する選手がいる場合、順序を入れ替える場合があります。コート挨拶時に両監督に主審よりマッチ順の説明をします。
- < 男子単→女子単→男子複→女子複→混合複 >
- ※コートを並行して行いますので、マッチの順序に関係なく、勝敗決定後打ち切りとします。

【試合進行】

- 1.6 競技の進行を円滑に進めるため、「オーダー交換」「試合開始のコール」等の放送に十分注意してください。ただし、該当チームが試合を行っている場合は対戦終了後、直ちにオーダー交換を行います。提出が遅れた場合、「棄権」とみなす場合もありますので注意してください。
- 1.7 オーダー用紙は、オーダー交換所に提出してください。対戦チームが揃ったらオーダー交換を行いますので、指定のあった時刻厳守をお願いします。
- 1巡目オーダー提出時刻は、2日間とも【8:10】です。2巡目以降のオーダー交換については、放送で案内します。
- 1.8 選手および監督・コーチは、試合開始のコール後、直ちにチームでまとまって指定コートに集合してください。コール後5分を経過しても集合が確認できない場合は、「棄権」とみなすことがありますので注意してください。
- 1.9 試合の進行状況にあわせて、試合開始時刻・使用コートをコールしますので、放送には十分注意してください。
- 2.0 ベンチは主審に向かって右側を若番(対戦表のチーム番号の小さい番号)、左側を遅番(対戦表のチーム番号の大きい番号)とします。
- 2.1 試合が連続する場合は、次の試合までに少なくとも10分間以上の間隔を取ります。

【会場内での公式練習】

- 2.2 公式練習割り当て表に従って、指定されたコートで行います。シャトルは各チームで用意してください。
- 2.3 公式練習では、主審の指示により全ての当該マッチ(試合)の前に両チームとも同時に2分間行います。ただし、シングルスの場合は、対戦相手と練習をしてください。
- 練習球は、各自で準備してください。

【入場時の携行品】

- 2.4 競技フロアに持って行くものは、選手ID、交換用ラケット(ケースから出しておく)、着替え用競技用ウェア、タオル、スクイズボトルや水筒等のドリンク、コールドスプレー類、滑り止め剤までとし、各自のバッグ等に収容してください。救急セット、その他のものはベンチまたはコーチングシートに置いてください。

【主審の許可】

- 25 水分補給、汗ふき、靴ひもの直し、滑り止めの使用、ストリングスを切ることについては下記の点に留意し、必ず主審の許可を得てから行ってください。マッチを中断しないように心掛けてください。
- (1) 水分補給の際はスクイズボトル・スクイズボトルキャリー・真空断熱スポーツボトル・水筒を使用してください。コートサイドにかごやドリンクケースを設置しません。必ずバッグ等を持参し、コートサイドに置き、ドリンクも各自のバッグに収容してください。
 - (2) 氷嚢の使用はインターバルのときのみ認めます。また、フロアー内への大きなクーラーボックスの持ち込みは禁止としますが、ベンチまたはコーチ席の下に入るような小さいものは持ち込みを可とします。(ソフト・ハード両方可)ただし、ベンチまたはコーチ席の下に置き、フロアーを濡らすことのないように十分注意してください。
 - (3) 団扇については、インターバル時のみ使用を認めます。ただし、叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とします。
 - (4) シューズの滑り止め(シューダスターボードなど)の使用はインターバルのときのみ認めます(主審の許可は不要です)。プレー中はコートサイドに置いたままにせず、コーチ席に置いてください。
 - (5) プレーが不当に中断しない範囲で、素早いタオルの使用やラケット交換時にガットを切ることを(素早く切ることができる場合に限り)認めます。

【スコアリングシステム】

- 26 すべての種目を21ポイント3ゲームマッチ(ラリーポイント制)にて行います。スコアが20-20になった場合、その後2点リードをしたサイドがそのゲームの勝者となり、29-29になった場合には、先に30点目を得点したサイドがそのゲームの勝者となります。

【サービス】

- 27 サービス時、シャトル全体が必ずコート面から1.15m以下であることとします。
28 スピンサーブは禁止とします。違反した場合は、フォルトとします。

【インターバル】

- 29 すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認めます。また、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。また、インターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れることは認めません。

【アドバイス・移動】

- 30 シャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ中のアドバイスを受けることができます。プレーヤーはインターバルを除き、主審の許可なしに、マッチ中、コートを離れてはなりません。プレーの遅延行為とならないよう、十分に注意してください。
- 31 インターバル中に、コートでアドバイスできるのは2人までとします。ファイナルゲームにおいては、プレーヤーがエンドを変えた後にアドバイスをし、主審の「…20秒」のコールでコートから離れてください。(所定の席に着いてください)
- 32 マッチ中、インプレーでない時のアドバイスはコーチング席に座って行い、マッチ中はコートのそばに立つことは認めません。
- 33 監督・コーチ・マッチをしていない選手が他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでない時に行ってください。

【抗議・異議、質問】

- 34 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。審判員の判定に対して疑問がある場合には、次のサービスがなされる前に、または、マッチの終わりであれば訴えるサイドがコートを離れる前に、当該プレーヤーと監督に限り「質問」をすることができます。

【注意・警告・フォルト・失格】

- 35 以下の違反をしたサイドに主審は警告をします。一度警告を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトとします。目に余る振舞い、執拗な違反には、その違反したサイドをフォルトにします。一つのサイドによる警告後の同種の違反行為によるフォルトは執拗な違反とみなされません。
- (1) 体力や息切れを回復するためのプレーの遅延
 - (2) アドバイスを受けることによるプレーの遅延
 - (3) インプレー中にアドバイスを受ける違反

- (4) プレーを故意に遅らせたり中断したりする行為
- (5) 審判員や観客に対しての横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動
- (6) ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くこと
- (7) 耳障りな掛け声や叫び声を発すること
- (8) 競技規則を越えた不品行または不快な行動

【怪我・事故】

- 36 マッチ中に怪我や事故が生じた場合は、主審の判断により、マッチを中断します。必要に応じてレフェリー（またはデピュティーレフェリー）を呼び、その判断に従います。レフェリー（またはデピュティーレフェリー）の判断なく、プレーヤーに近寄ることはできません。
- 37 大会医療スタッフは、負傷等により処置が必要なプレーヤーに対して、インターバル中を除き、レフェリー（またはデピュティーレフェリー）の指示で、1選手に1度だけ、マッチ中にスプレーを使用した処置をすることができます。
- 38 試合中の怪我等の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。

【棄権】

- 39 棄権について
 - (1) 当該プレーヤーか監督がレフェリー（またはデピュティーレフェリー）に申し出てください。（棄権届用紙に必要事項を記載して、提出してください）
 - (2) 対戦前に対戦相手が棄権となった場合、招集されたコートで勝者は勝者サインをしてください。
 - (3) マッチを棄権した場合、それ以降の出場はレフェリー（またはデピュティーレフェリー）判断とします。
 - (4) プレーヤーがマッチの開始時にコートに入らず、放送呼び出し後5分以上経過した場合、不戦勝とし棄権の措置をとることがあります。その判断はレフェリー（またはデピュティーレフェリー）が行います。

【禁止行為】

- 40 競技者のマッチ中における電子通信機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等）の使用を禁止します。コートに持ち込む際は必ず電源を切っておいてください。
- 41 競技エリア内での撮影は禁止します。（取材・写真販売業者等、あらかじめ許可を得ている者を除きます）

【その他】

- 42 今大会、選手は各マッチ（シングルス、ダブルス）終了時に、主審と握手をしてマナーアップを心がけてください。
- 43 交流戦については、『交流試合Ⅰ（予選リーグ2・3・4位交流）および交流試合Ⅱ（予選リーグ1位交流）実施要項』に従ってください。
- 44 全参加チームが予定時に安全な帰着困難が予想される場合（災害、交通状況等によって）は、新たにタイムテーブルを組み直し運営します。また、スコアリングシステムの変更もしくは中止を決定することもあります。